



舟津 圭三

## 極北の森

アラスカ内陸の森の中に住んでいます。極北の森は、冬は犬ぞりで走ったり、夏は散歩したり、ごく身近な存在です。森との触れ合いを持つたびに、いつもその清しさに心洗われ、清浄な気持ちにさせられます。無駄な物が一切なく、生きるために必要不可欠なものだけで、全てを循環させている、自然のエネルギー、もっと大きく言えば宇宙のエネルギーがそこにあるのかもしれませんが。普段の生活の中の溢れる物や情報量、デジタルな社会から一歩離れて、森のエネルギーに身を包まれれば、自らも自然の一部となって、誰もが、清しい優しい気持ちになれるのだと思います。

人類の歴史は、森林破壊の歴史と言われます。森は、陸地での生命の土台であり、その土台が崩れれば、文明社会もやがて崩壊するのは、歴史が証明しています。森の中を歩きながら、現代社会を振り返った時、僕たちは、その歴史の流れの渦の中にいるのは確かです。「歴史は繰り返す」を繰り返さない為にも、森という生命の土台の大切さを、誰もがリスpekしていかねばならない時だし、多くの人が、森との触れ合いの機会を持ち、清しい優しい気持ちになってもらいたいものです。

舟津 圭三

ドッグマッシャー(犬ぞり使い)

アラスカ内陸フェアバンクス近郊ツーリバーズに1994年に移住。

過去にグリーンランド犬ぞり縦断(1988年)、南極大陸犬ぞり横断(1989年から1990年)、アラスカの長距離レース、アイディタロッド1800キロレースやユーコンクエスト1600キロレースを完走。

現在、森の中で18匹のそり引き犬たちとともに暮らしています。